令和７年度　　日野市立 七生緑小学校　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和7年6月公表

★学校の教育目標　多様な個性を尊重し、一人一人が輝く児童の育成

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童像】　◎やさしい子　〇かしこい子　〇たくましい子

【目指す学校像】　個性を発揮し合い子供が主役の楽しい学校

【目指す教師像】　〇すべての〝いのち〟を守り、育む教師　〇子供一人一人を大切にした親和性の高い温かい学級をつくる教師（特別活動の充実）　〇柔軟な学び方・学ばせ方を大切にした教育活動を展開する教師（多様な学びの実践）
〇児童の将来を見据え特別支援教育にかかわる知識・技能を身に付けようとする教師　〇授業力向上のため研鑽を重ねる教師　〇保護者、地域の人や同僚・組織とつながり、対話を基盤とした親和性のある教育活動を展開できる教師
〇教育公務員として全体の奉仕者である自覚をもち、服務規律を遵守できる教師

★重点計画の概要

「みどりプロジェクト～探究と“ホンモノ”の学び」
　学年学級の中での親和性の高い人間関係を基盤に、様々なことに対し意欲的に挑戦できる学校をつくる。
〇情報メディアセンター「みどりルーム」を活用した探究的な学びの充実
〇近隣大学等、地域リソースを活用し児童が“ホンモノ”から学びを得る活動の充実
〇親和性の高い人間関係形成力を育むための基盤となる特別活動の充実（校内研究）

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 取組指標		評価指標・評価基準 成果指標	
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	一人一人を大切にした多様な学びの実現	児童自らが自分に合った学び方を選択し、多様な個と考えを創造したり、日常の事象や授業で学んだこと等から課題を見付け、探究的な学びを実践する。	各学年・学級で単元全体もしくは１時間の授業で育みたい資質・能力に合った児童主体の多様な学びを実践する。	４	「児童主体の多様な学びを実践できた。」と回答した教員が８５％以上	４	「自分で学び方を選択して学ぶことが正しい。」と回答した児童が８５％以上
				３	「児童主体の多様な学びを実践できた。」と回答した教員が８０％以上	３	「自分で学び方を選択して学ぶことが正しい。」と回答した児童が８０％以上
				２	「児童主体の多様な学びを実践できた。」と回答した教員が７０％以上	２	「自分で学び方を選択して学ぶことが正しい。」と回答した児童が７５％以上
				１	「児童主体の多様な学びを実践できた。」と回答した教員が７０％未満	１	「自分で学び方を選択して学ぶことが正しい。」と回答した児童が７５％未満
			情報メディアセンター「みどりルーム」において、一人１台端末と図書を有効的に活用し、自ら設定した探究課題を解決する力を育む。さらに読み聞かせや読書ルーム・情報活用センターとして活用し、読書活動の充実を図り豊かな情操を育む。	４	「児童の探究的な学びを実践した」と回答した教員が８０％以上	４	「自分の知りたいことを本やインターネットを活用して調べながら学ぶことが楽しい」と回答した児童が８０％以上
				３	「児童の探究的な学びを実践した」と回答した教員が７０％以上	３	「自分の知りたいことを本やインターネットを活用して調べながら学ぶことが楽しい」と回答した児童が７０％以上
				２	「児童の探究的な学びを実践した」と回答した教員が６０％以上	２	「自分の知りたいことを本やインターネットを活用して調べながら学ぶことが楽しい」と回答した児童が６０％以上
				１	「児童の探究的な学びを実践した」と回答した教員が６０％未満	１	「自分の知りたいことを本やインターネットを活用して調べながら学ぶことが楽しい」と回答した児童が６０％未満
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	すべての”いのち”が輝き、よろこびあふれる未来をひらく教育の推進	児童の心身の状況把握に努めるために学校生活アンケートを定期的に実施し、児童が学校生活を楽しく安心して、過ごせるようにする。	日頃から児童の変化を察知するとともに、学校生活アンケートを年３回実施し、いじめの未然防止、早期発見を図る等「いじめ見逃しゼロ」を目指す。いじめが発生した場合は、学校いじめ防止基本方針に従って、いじめ対策委員会を中心に、迅速かつ的確に組織的対応・解決を図る。	４	日頃からいじめ見逃しゼロに取り組み、学校生活アンケートをもとに児童との相談を行った教員が８５％以上。	４	学校生活アンケートで、「困ったときなどに先生やまわりの大人に相談できた。」と回答した児童が８５％以上。
				３	日頃からいじめ見逃しゼロに取り組み、学校生活アンケートをもとに児童との相談を行った教員が８０％以上。	３	学校生活アンケートで、「困ったときなどに先生やまわりの大人に相談できた。」と回答した児童が８０％以上。
				２	日頃からいじめ見逃しゼロに取り組み、学校生活アンケートをもとに児童との相談を行った教員が７５％以上。	２	学校生活アンケートで、「困ったときなどに先生やまわりの大人に相談できた。」と回答した児童が７５％以上。
				１	日頃からいじめ見逃しゼロに取り組み、学校生活アンケートをもとに児童との相談を行った教員が７５％未満。	１	学校生活アンケートで、「困ったときなどに先生やまわりの大人に相談できた。」と回答した児童が７５％未満。
		特別活動を基盤として互いに思いやり助け合う態度を育て、様々な人とかかわる体験を重ねることにより、自他の”いのち”を大切にするとともに、様々なことに安心して取り組める自己肯定感を高める教育活動を実践する	「学習指導要領における「特別活動　学級活動（１）」を中心に教員は研さんを重ね、全学級で学級会を実践する中で、児童が安心感をもって自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け入れたりする合意形成力、”折り合い力”を高め、様々なことに挑戦できる基盤となる親和性の高い人間関係形成力を育む。	４	学級活動（１）を通し、「様々なことに挑戦できる基盤となる親和性の高い人間関係形成力を育むことができた。」と回答した教員が８５％以上。	４	学年や学級の中で「自分の考えを安心して発信し、友達と考えを深めることができた。」と回答した児童が８５％以上。
				３	学級活動（１）を通し、「様々なことに挑戦できる基盤となる親和性の高い人間関係形成力を育むことができた。」と回答した教員が８０％以上。	３	学年や学級の中で「自分の考えを安心して発信し、友達と考えを深めることができた。」と回答した児童が８０％以上。
				２	学級活動（１）を通し、「様々なことに挑戦できる基盤となる親和性の高い人間関係形成力を育むことができた。」と回答した教員が７５％以上。	２	学年や学級の中で「自分の考えを安心して発信し、友達と考えを深めることができた。」と回答した児童が７５％以上。
				１	学級活動（１）を通し、「様々なことに挑戦できる基盤となる親和性の高い人間関係形成力を育むことができた。」と回答した教員が７５％未満。	１	学年や学級の中で「自分の考えを安心して発信し、友達と考えを深めることができた。」と回答した児童が７５％未満。
社会と未来に開き、みんなでつくる	地域をステージとする学びの充実と幼保小中・特別支援学校との持続可能なつながりによる一貫した教育活動の充実	地域をステージとする学びを充実させ、幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに地域共生社会を築くべく、各園・学校とのつながりを重視したによる教育を展開する。	近隣の幼稚園・保育園や小中学校、七生特別支援学校、あしながレインボーハウス等との交流をとおし、共生社会の一員として自分も相手も大切にしたいという多様な個を尊重する心を育成する。	４	「地域の多様な人材を活用した授業を行い、多様な個性を尊重し合える関係づくりができた。」と回答した教員が８５％以上。	４	「地域の人との交流をとおし自分も相手も大切し、多様な個を尊重していきたい。」と回答した児童が８５％以上。
				３	「地域の多様な人材を活用した授業を行い、多様な個性を尊重し合える関係づくりができた。」と回答した教員が８０％以上。	３	「地域の人との交流をとおし自分も相手も大切し、多様な個を尊重していきたい。」と回答した児童が８０％以上。
				２	「地域の多様な人材を活用した授業を行い、多様な個性を尊重し合える関係づくりができた。」と回答した教員が７０％以上。	２	「地域の人との交流をとおし自分も相手も大切し、多様な個を尊重していきたい。」と回答した児童が７０％以上。
				１	「地域の多様な人材を活用した授業を行い、多様な個性を尊重し合える関係づくりができた。」と回答した教員が７０％未満。	１	「地域の人との交流をとおし自分も相手も大切し、多様な個を尊重していきたい。」と回答した児童が７０％未満。
	〝ホンモノ”の学びの推進	児童一人一人が、様々な”ホンモノ”に触れる経験をとおし、自ら「新しいことにチャレンジしてみよう」という気持ちをもてるようにする。	地域の多様な人材である近隣の大学の学生から”ホンモノ”の知識・技能を学ぶ中で、生涯に渡って学びに向かう態度を育成する。	４	「地域の教育資源を活用し、児童が生涯に渡って学び続ける機会を年に1回以上作った。」と回答した教員が９０％以上	４	「”ホンモノ”に触れ、新しいことに挑戦してみようかなと思えた。」と回答した児童が９０％以上
				３	「地域の教育資源を活用し、児童が生涯に渡って学び続ける機会を年に1回以上作った。」と回答した教員が８０％以上	３	「”ホンモノ”に触れ、新しいことに挑戦してみようかなと思えた。」と回答した児童が８０％以上
				２	地域の教育資源を活用し、児童が生涯に渡って学び続ける機会を年に1回以上作った。」と回答した教員が７５％以上	２	「”ホンモノ”に触れ、新しいことに挑戦してみようかなと思えた。」と回答した児童が７５％以上
				１	地域の教育資源を活用し、児童が生涯に渡って学び続ける機会を年に1回以上作った。」と回答した教員が７５％未満	１	「”ホンモノ”に触れ、新しいことに挑戦してみようかなと思えた。」と回答した児童が７５％未満。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。